

教育振興事業ダイジェスト

公益財団法人日本教育公務員弘済会岐阜支部が行う教育振興事業は、「最終受益者は子どもたち」という理念の下で進められています。前ページ・本ページでは「奨学事業」「特別学校助成事業」「学校研究助成事業」「へき地・複式学校教育支援事業」「奨励金助成事業」の実践の一部を紹介しています。

■ 給付奨学生：県立高校普通科1年生 給付奨学金

たくさんの生徒がいる中で僕を推薦してくださった先生方や弘済会の皆様の気持ちに応えられるように、これからも将来の夢に向かって努力していきたいです。そして、学業と学校生活を両立させ、友達との思い出をたくさん作っていきたく思います。

給付奨学生の決定を受けて、自分の頑張りが認められたことと親の負担を減らすことができたことをうれしく思っています。僕の家は母子家庭で、高校生の姉と小学生の妹2人の4人兄弟です。母親には重い負担がかかっていると思うので、今回の奨学金で少しでもその負担を軽くすることができたらうれしいです。

母とこの大切なお金について話し合いました。その話し合いを通して、お金の必要性、収入を得る大変さ、そして今の生活ができることの有り難さを感じました。世界には、学びたいと思っても学校に行けない人たちがたくさんいます。だからこそ、この学ぶことができる環境を当たり前だと思わず、チャンスがあったら思い切って挑戦し、多くの人と知り合って視野を広げていきたいです。

これからもたくさんの人の助けを借りて生きていくことになると思います。感謝の気持ちを忘れず、直接でなくても自分の頑張りで恩返ししていきたいです。

■ 可児市立春里小学校 特別学校助成

「世界が変わるSDGs」「マンガで学ぶSDGs」「地政学でわかるわたしたちの世界」など、私たちが生きる社会について学ぶ図書を助成していただきました。6年生では、総合的な学習の中で、SDGsについて学んでいます。助成いただいた図書は、調べ学習としてたいへんありがたく利用し、学びを深めていきたいと思っています。

本校では、一週間に一度の朝読書やライブラリ委員会主催の様々な活動をしています。特に春と秋の読書週間では、いろいろな分類の本に親しんでもらおうと、推薦図書やライブラリ委員おすすめの本を紹介しています。さらに、地域ボランティアを招いての読み聞かせや高学年でのブックトーク活動など、発達段階に応じて児童の読書への関心を高めています。ライブラリ委員は、開館日以外でも、図書室環境維持のため、本の整理整頓を自ら行っています。これからも図書を大切に、読書に親しむ児童を育み、楽しみながら学ぶ読書教育を進めていきます。



■ 岐阜市立草潤中学校 学校研究助成

本校は、令和3年度に不登校特例校として開校しました。「ありのままの君を受け入れる新たな形」を学校の教育目標に掲げ、「多様で体験的な学習を通して、自己肯定感を高め、社会性を育むこと」を学校経営の重点の一つとしています。

学校説明会では、本校での学びを多くの人に伝えたいという生徒の願いを受け、自分や仲間の学びの様子を発信する場を設けました。仲間と合奏する様子や学校生活の様子を助成いただいたスクリーンに映し出し、本校の特徴や日々の生活での思いを緊張しながらも心を込めて語ることができました。

参加された方から温かい感想が寄せられ、心から喜ぶ生徒の姿が見られ、自己肯定感を高める貴重な機会となりました。



■ 輪之内町立大藪小学校 学校研究助成

本校の体力づくり部では、「自ら考え、命を大切に、健康で安全に生活する子」を目標に、運動を通じた体力づくり・健康づくりを実践し、明るく元気な児童の育成に努めています。

外遊びの減少や筋力の低下などもあり、逆上がりを苦手とする児童は少なくありません。今回の助成で逆上がり練習機を設置したところ、休み時間や放課後に順番を待つ列ができ、逆上がりにチャレンジする姿が見られるようになりました。練習機で逆上がりができるようになると、隣の鉄棒で逆上がりに挑戦する児童の姿が多くみられました。

助成いただいたなわとび台の前にも順番を待つ列ができ、前跳び、後ろ跳び、交差跳び、駆け足跳びと、多くの技を練習する姿が見られます。



■ 白川町立黒川中学校 へき地・複式学校教育支援

技術科では、黒川中を紹介する「黒中プロモーションビデオ」の制作をしました。黒川中学校の良さは何かを話し合い、黒川の地域や歴史も紐解きながら動画のテーマを考え、コンテを作成しました。「質のよい動画を撮影したい」「ドローンを利用した動画を使いたい」「校内行事の動画を使いたい」という生徒のニーズを受け、iPadとドローンを使って動画の撮影を行いました。撮影・編集にあたっては、地域の企業の協力を得ることができ、完成した動画はCCNetで放映されました。

総合的な学習の時間では、伝統芸能を地域の方から学ぶ活動をしています(1年生「箱岩太鼓」2年生「歌舞伎」3年生「三味線」)。助成の機器を使い生徒がお互いに撮影し合い、自分の出来映えを確認し、公演に向けた練習を行いました。

助成いただいた高性能のタブレット端末(iPad Air)機器は、生徒の学習活動を充実させることに大いに役立ちました。



■ 中津川市立加子母中学校 学校研究助成

本校の生徒は、保育園の頃からほとんど同じ仲間と集団生活を共にしています。互いのことをよく知っているよさがある一方で、自分の考えたことや思ったことを他者に伝える面で弱さがあります。「伝え合う力」は、将来新しい環境で生きていかなければならない本校生徒にとって、身に付けておかなければならない学力・生きる力の一つであると考えています。

授業では、積極的に話す姿勢づくりに向けて、根拠を明確にして自分なりの考えを持てるように、配布教材や資料を工夫して作成しています。今回カラープリンターを助成いただき、授業で活用する教材や資料はカラーで印刷して資料の細部に着目できるようにしています。理科単元「力のはたらき」の発展学習では、アーチ橋づくりに挑戦しました。カラーのワークシート活用により、どんな形のパーツが力を分散させているかを理解することができました。



■ 飛騨市立古川小学校 学校研究助成

助成いただいた大型テレビモニターは、放送室に設置して校内放送で活用しています。本校では、毎日お昼の放送をテレビモニターで視聴しています。児童放送委員会が放送内容を計画し、校内の様子などを知らせています。また、児童会各委員会のキャンペーンの様子や校内で見つけた素敵な姿などを紹介しています。大きなモニターに自分の姿が映ったり、モニターを背にして話したりする場が増えたことで、児童の「相手に伝わるように話す」意識が高まってきました。

タブレットで撮影したものを放映したり、編集したものを放映したりと委員会ごとに工夫をしており、給食を食べながら見ている児童にとって、お昼の放送は楽しみな時間となっています。



■ 岐阜県立武義高等学校 学校研究助成

今回、英語多読図書を助成いただきました。総合的な英語力の向上を目指し、授業内を始め、生徒による自発的な学習に活用しています。

授業では、全員異なる英文に触れることとなり、いつにも増して真剣に英文を理解しよう、伝えようとする姿が見られました。Disneyやアメコミ風ヒーローが主人公の本もあり、「いつもより楽しんでできた」という感想を持ちました。

空き教室には英語多読図書専用の本棚を置き、誰でも本を借りられる環境を整備し、英語に興味がある生徒の自発的な学習の場としました。幼児向けの優しいレベルのものから、読みごたえがあるものまで数を揃えることができましたので、生徒は自分のペースで各々のレベルに合った学習をしています。



■ 岐阜県立海津特別支援学校 学校研究助成

小学部では生活単元学習を学習活動の中心に据え、特に低学年では発達の基本である感覚統合を促す授業を多く取り入れています。

今回助成のNCプログラムスターズキットや、児童がより使いやすいサイズに作成したアセスメントセットを活用して、小学部児童全11名に個々のアセスメントを行いました。これにより、個々の児童の発達段階や習得・不得意を明確に把握することができました。

これを踏まえて設定した生活単元学習「わくわくだいぼうけん」では、今回助成のローリングシーソーやスクーターボード、バランスボード、既存の布ブランコや段ボール迷路を活用して、全身を使った楽しい活動を行いました。

感覚統合が促されたことで、学習活動に落ち着いて参加できるようになり、離籍が減った児童や活動に集中して取り組む児童が多く見られました。



■ 飛騨市河合町歌舞伎保存会 奨励金助成

平成19年発足の「河合町歌舞伎保存会」は平成29年に「飛騨市河合町歌舞伎保存会」と改名し、年1回の「飛騨かわい地歌舞伎公演」と平成23年から続けている河合小学校での歌舞伎の指導を主な活動としています。

令和3年度、飛騨市や地元の金融機関の支援を受けて市の体育館を芝居小屋として改装しました。音響設備や照明器具等の充実に力を注いでいたところで、今回助成いただいたスポットライトは、大変有効な照明器具の一つとなっています。

10月23日に令和4年度の公演を行いました。演目「青砥縞花紅彩画 弁天小僧浜松屋 店先の場」は、主役の2人を小学校で保存会の指導を受けた中学生が演じました。若い力に満ち溢れたものとなり、約150名の観客が大きな拍手でその熱演を讃えました。

